

座談会

1万羽 養鶏は語る

—主産地化をめざして—

出席者

金光輝夫（御津郡御津町）

練苧英雄（吉備郡高松町）

田淵五祿（苫田郡鏡野町）

今井 寛（県経済連畜産部長）

司会 千原英之（県畜産会管理普及課長）

—将来の養鶏は大規模でなくてはだめだといわれておりますが、岡山県の現状は小規模経営がほとんどです。そこで今日は、伸び悩んでいる少羽数の方になんらかの形で、経営者の方にヒントを与えていただきたいと思います。また自分自身が大規模養鶏をやってみてその経験と悩みを語っていただきたいと思い、題して“1万羽養鶏は語る”の座談会を開いたわけです。金光さんと練苧さんは協業、田淵さんは個人経営ですが、その間を経済連の今井畜産部長にまとめていただきたいと思います。

まず、みなさん方の経営の生い立ちから説明して下さい。金光さん、おたくの最初はどうな状態でしたか？

裸一貫でやる意気込みの者同志の結束

金光 私の町には小さいながらも13人からなる養鶏組合があったのです。そこに36年8月から近代化資金が融資されるようになったのです。最初は申請すればすぐかしてくれると思っていたのですが、研究してみると担保とかなんとかで、結局金のない連中には金は貸してくれないらしく、裸になってもやろうということで最後に残ったのは5人でした。

そこで当初から1万羽養鶏を目指して始めたのですが、この鶏舎4棟を建てる土地に一番にこまりました。

現在資金は個人が17万ずつ出資、近代化資金

650万円かりて、施設に1千百数十万円かかっています。

—作業面はどうしておりますか。

金光 5人の交代制でやっております。私のところの協業の場合はいっさい給料は支払ってないのです。帳面上では払っていますが、全部資金にくり入れております。個人の生活費は自分の家の水田や温室から得ているので、そのほうもおろそかに出来ませんからね。その点交代制でやってると楽です。

練苧 私のところも金光さんの場合と似ておりますが、私のところでは途中から給料を払っています。それに高松町の場合は農協、役場の施策が養鶏に関連しており、多少金光さんの所より資金の導入が容易でしたし、38年には構造改善地区に指定されて、施設に半額助成がありましたからね。

苦労した記帳

—最初は帳簿の取まために苦労したでしょうね。

練苧 いままで鋤をもって耕種農業をやっていた連中がソロバン片手に記帳するのですから、最初はとまどいました。今は人を雇っているので楽ですがね。

金光 私のところは農協簿記でやっており、会計は5人のうちの1人にまかせ、毎日の記帳は当番がすませて帰るようにしています。

—田淵さんは個人経営でいらっしゃいますが、最初どれくらいから始めましたか。

田淵 私はほんのわずから始め、5年間がかりで一步一步進めてきました。現在は5千羽を目指し、2年後には1万羽で会社組織をねらっているところです。

—ところで始められるときに、家族の方は反対し

岡山畜産便り 1964.04

なかったですか。

田淵 最初はいやがりでしたね。

練亭 どこも同じだろうと思いますが、やるんだやるんだと言っても納得しなかったですね。やはり計画性のあるものでないと…。

—金光さんは給料を少しも家に持って帰ってないわけですが…。

金光 全部資金に廻しているのですが高い利子のつく金を借りといて、それで給料を家に持ち帰り飲み喰いしていたんではやってゆけず、伸びもありません。まあ、仲間みんながまんしているのです。

成功する秘訣 研究熱心が第一

—養鶏に成功する秘訣はなんでしょうね。

練亭 まず研究熱心ということです。やり始めは飼養技術をみがき、規模が大きくなると経営技術を学ぶことです。

金光 昔からよくいうでしょう、にわとりは足跡に比例してもうかる、つまり気を付けてよく見てまわるほどもうかるわけです。

田淵 実際に、にわとりが 500 羽おろうと 5 千羽おろうと、にわとりと話が出来るといえないと成功しませんね。

金光 協業の場合でも、損をしても自分 1 人の責任じゃない、みんなのものだなんて考えていたのでは、必ず失敗しますよ。

資金不足が最大のガン！！

—飼うことより金集めに汗をかくのが現実—

—岡山県は羽数が多いのに、規模が拡大しないというのは、まだ農家が目覚めていないということですか。

田淵 それもありましようが、第一の原因は資金がないことです。にわとり 1 羽 1 羽の費用は少ないものですが、数をまとめると莫大な資金を要します。にわとりを飼って汗をかくよりも、いかにして金を集めるかに、よけい汗をかくということです。

—こういう点を農協さんにもっと力を入れてもらいたいですね。技術の指導はしてやるが、資

金は勝手にしろではどうもね、経営指導までやらないと本当の伸びはありませんよ。

副業養鶏では 500 から 1000 羽 事業は万単位で

—将来の養鶏について、少羽数（1000 羽以下）経営か、万単位の養鶏かということでどうお考えですか。

金光 副業養鶏では 500 から 1000 羽がせい一っぱいでしょうが、これからは大羽数でゆかねばだめだと思います。僕らでも、もう遅れているのじゃあないかと心配しているのです。

今井 この間、あるオバサンから聞いたのですが、「私の手間では 200 羽が丁度です、これが適正規模です」いうのですが、たしかに小遣い取りにはそれでよろしいが、これでは発展性がありませんから、やはり資金を導入してゆるすぎり大羽数にして、コストを下げゆかないと社会の進歩に遅れますよ。

金光 コストを下げるには近代設備で大羽数にして時間でも節約するとかで、方法があまりありません。それで収入を増やそうとすれば、高いエサを買って食わしてコツコツかせがねばなりませんしね。月給取りなら毎年ストをやればいいけど…。

我々の協業仲間はみんな給料取りを止めて、養鶏をやっているんです。残ってまだつとめてる連中はもう大分もらってますが、あいつらに負けるものかという、ケンカをするような気持で頑張っているのですよ。

田淵 副業的に 100 羽ぐらい飼つとる人は、かけている金もわずかですが、相当の規模の人は何百万、何千万円の本をにかけてるのだからほっとかれませんか。子供にいたるまで心がまえが違います、またそうでないと成功しませんよ。

—経済連の指導方針はどうなっておりますか。

今井 特にといいことはありませんが、主産地造成と大口奨励ですね。大口奨励は大体 1000 羽以上ということです。

部分協業か全面協業か

—話題をかえて、協業の場合に全面協業と部分協業、つまり流通面のみ協同でやる方法の 2 通り

岡山畜産便り 1964.04

ありますが、この点どうお考えになっておりますか。

金光 我々が始めるときも、その点を話しあったのです。部分協業でやればお互いに競争心がおこり、はげみあっていい面もありますが、それでは自分のにわとりに年中かかりきりになってしまいます。ほかに自分の家の仕事もありますしそれに人間はやはり息抜きをしなければなりませんからね。

練苧 それから人の和という面からも部分協業はよくありません。私らも毎日の管理をよく話し合い、また注意しあってやっております。

今井 やはり指導管理するものが、しっかりしないと真の協業はなりたちませんよ。

田淵 部分協業では個人のを、ひとところに集めただけですから、協業といえるでしょうかね。

これが他の部門が入っているのなら、つまりこの棟はにわとり、これは豚、これは肥育というのなら、専門、専門の人でやってゆけますがね。

大切な中心人物の存在の有無

一ところで協業の場合、6人でやっても6人の作業能力が違いますし得手不得手もあるということから、作業面のミス、感情のもつれなどということはありませんか。

練苧 私のところは平均年齢が27才で、能力はほぼ同じですし、作業面のミスなんてのはありませんでしたね。

今井 なん度もいいますように、指導者を中心によく研究し、話合って、小さな作業においてもこの方法が一番いいという点にまで達することです。そうすれば他人の悪口をいうこともないですからね。

練苧 私らが聞く協業で失敗した例は作業面よりは資金繰りで、ほとんど失敗しているようですね。

今井 それはね、資金を借りるために協業ということにしているだけで、本当の協業ではなく、最初からしっかりしていないのだから、失敗す

るのがあたりまえですよ。

金光 僕らは寄ったらみんなの悪口を言い合うのですよ。お前は少し時間がおくれとるとか、エサのやり方にむらがあるぞとか、それじゃこうしようとか、全部いいあつとるのです。

練苧 それと、こんな具合にやったらみんなが同じようにやれる、という作業を持ってこなけりゃいけませんですね。

田淵 お話を聞いてみまして、全く中心になられた人が、良かったということですね。悪口をいいあつても、それをうまくまとめる人、また悪口が平気でいいあえるような雰囲気を作る人がいるから協業がうまくいっているのですよ。

大規模化をして困る面は？

一ところで大羽数になると1000羽以下の養鶏と違い、管理技術、経営技術、労働面、資金面などで大分異なりなすね。そこで省力化、衛生、鶏糞、エサの面などで問題が生じてきましようが、それに対する注意どころなどをお話していただきたいと思いますが、大羽数になって一番困るのは何でしょうか？

鶏糞の処理

全員 一番問題になるのは、鶏糞の処理です。

一その処置はどうされていますか。

練苧 今の段階は、竹ザルに入れて自然乾燥です。乾燥機もありますが、まだ脱臭装置などの点で実用にまでいきませんし、乾燥促進剤もありますがまだまだです。乾燥した鶏糞の販売は、何トンあっても売れるのですがね。

伝染病の侵入

一その次にくる問題はなんですか。

練苧 伝染病の侵入がおそろしいですね。その処置は、予防衛生の徹底が一番必要です。

金光 高いサルファ剤を使って治療するよりは早期発見につとめ、かかったトリはすてるのが最も安上りですね。

一そうすると予防衛生費がだいぶかかりましようね。

岡山畜産便り 1964.04

練亭 1万羽のにわとりに1ヵ月当り3~5万円はかかりますよ。

産卵率の低下

—産卵率はいかがですか。

練亭 大羽数になればなるほど、産卵率はどうしても下ります。

田淵 しかし産卵が季節的に平均してきます。ある一群が産まなくなっても、更新したにわとりが漸次産み出しますからね。ただしその平均は、少羽数飼養より一段低いものに、どうしてもなりますが。

よくにわとりは儲からんという人は、100羽か200羽で年に1回しか育すうをしない人です。春は育て易いが、1番ヒナの高い時期ですから1羽のにわとりが高くなります。にわとりは常に更新しないとだめです。それには、やはり大羽数を飼わなければ、更新しにくいということになります。

練亭 個人経営にしても協業にしても大羽数になれば、育すう計画は立てやすいですよ。

工業的要素の強い養鶏

—大羽数飼育になりますと、どの程度省力化出来ますか？

田淵 第1にね、少羽数の人と我々とは設備が違いますよ。コック1つひねったら、全鶏舎に給水出来るような施設が大きくなるとやれますからね。

—1人で飼育し得る最高羽数は、何羽ぐらいですか？

練亭 自動給餌機をつかわない場合は2千500から3千というところです。

今井 アメリカでは、平飼鶏舎で自動給餌機を使用して、1人で1万羽という報告があります。

金光 むかしは飼料といっても単味飼料を買って配合し、緑餌なんかいないときは道端の草まで刈ってきてチョッパーにかけて、それをまだ水で練っていたんですからね、今は昔の10倍は早いです。

—配合飼料が出来たことが、養鶏ののびた1つの

要因になっているようですが、もっとほかにありますからね。

今井 それはですね、畜産といわれながらも養鶏は設備投資、回転の早さ、省力化など農業より工業に近いです。これが大きな要因です。我々はあの大きな鶏舎に入ると鶏が1つ1つの紡績の綿に見えます、卵を生む機械ですね。

濃厚飼料のみでやれる強味

田淵 それににわとりは、完全配合飼料のみでやってゆけるということです。乳牛、和牛にしても濃厚飼料だけでやれますが、それでは牛をつぶしてしまうし採算が合いませんからね。

—最後に今井部長さん、ひとことお気付きの点はございませんか。

今井 これからの養鶏は主産地化、集団化、大口化しなければならず、また岡山県でもそうなっています。しかしそれにもまして、大都市近郊地に主産地形成が進んでいます。そこで阪神地区からある程度距離のある本県としては、大規模化するとともに、品質の良いものを大量に安く生産して、しかも継続的に出荷してゆかなければならないのです。この点を特に、養鶏農家の方々にお願いしておきます。

—ありがとうございました。これから大きくのびようとしている農家にとりたいへん役に立つことと思います。どうもお忙しいところごくろうさまでした。